

2017年2月刊行

旧軍用地と戦後復興

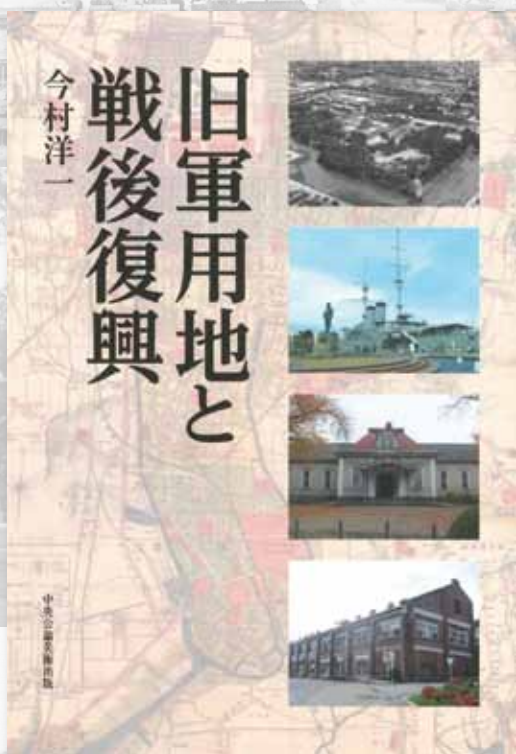
今村洋一（長崎大学大学院工学研究科准教授）著

本体価格六、五〇〇円＋税

A5判上製カバー装 本文三四四頁（図版二二五点） ISBN978-4-8055-0780-3 C3051

戦後、広大な軍用地はどう都市化されたのか

終戦によって遊休国有地となった旧軍用地が、どのように都市に組みこまれ、戦後復興が図られたのかを、全国的な動態と個別の都市の具体例から包括的に考究し、戦後史としてだけでなく、人口減少時代を迎えた現代の土地活用と都市計画の課題にも広く示唆を与える気鋭の論文集。



中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1
IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱いは

旧軍用地と戦後復興

今村洋一 著

本体価格6,500円+税

A5判上製カバー装 本文344頁 図版225点 ISBN 978-4-8055-0780-3 C3051

目次

序章	旧軍用地転用の全体像
第一章	旧軍用地の立地
第二章	終戦直後に国から出された旧軍施設の転用方針
第三章	戦災復興計画における旧軍用地の転用方針とその成果
第四章	高度経済成長期前半における旧軍用地の転用と都市施設整備との関係
第五章	旧軍港市四都市における旧軍用地の転用傾向
第二部	各都市で展開された旧軍用地転用と都市形成
第六章	旧軍用地の学校への転用と文教市街地の形成
第七章	東京における戦災復興緑地と旧軍用地
第八章	名古屋における旧軍用地転用と都市構造再編
第九章	横須賀市における旧軍用地転用計画とその特質
第一〇章	佐世保市における旧軍用地転用計画とその特質
結章	

【著者略歴】

今村洋一 (いまむら・よういち)

昭和 49 年 群馬県生まれ
平成 9 年 筑波大学第三学群社会学類卒業
平成 11 年 筑波大学大学院修士課程環境科学研究科環境科学専攻修了
平成 14 年 東海総合研究所 (現三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング) 研究員
平成 20 年 東京大学大学院博士課程工学系研究科都市工学専攻修了
平成 21 年 新潟大学大学院自然科学研究科 助教
平成 25 年 長崎大学大学院工学研究科 准教授

専門は都市計画。博士論文『戦後日本の都市づくりにおいて旧軍用地が果たした役割に関する研究』にて、平成 20 年度日本不動産学会湯浅賞 (研究奨励賞)、『旧軍用地転用に係る都市計画に関する一連の研究』にて、平成 26 年度日本都市計画学会論文奨励賞を受賞。

《関連書籍》

戦前期の地方都市における近代都市計画の動向と展開

浅野純一郎 著

本体価格 9,000 円+税

A5 判上製函入 本文 338 頁 挿図 86 点 ISBN 978-4-8055-0583-0

戦前期の全国 42 地方都市の沿革、成立、変遷を論じた現代につながる都市のコスモロジー。